長洲町立長洲小学校　校長便り　№.１４０

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年１２月７日(木)

徒然

先日、気になっていた墓参りに行ってきた。両親の実家は益城町と西原村、熊本地震で最も被害の大きかった地域である。あれから7年半の時が流れた。２つの町に住んでいる方々は私の親戚を含め、被災直後からとても前向きに活動していたように感じる。何度かお手伝いに行くことがあったが、いつでもにこやかに迎え入れてくれた。そして「な～んも無かばってんが…」といって、その時々の季節を感じるご馳走を準備してくれる。今回もそうだった。時期的なものだろうか、大根と人参のなますが出てきた。胡麻と酢の風味が効いていてとても美味しかった。

帰る頃には新米とさつま芋をくれた。西原村の伯母は８０歳を超えているが矍鑠（かくしゃく）としていて、今でも芋を育てている。「泥ばせせりよっと楽しか。」が口癖だ。

２つの町村に共通して私が感じている価値観は「地域連帯」と「おもてなし」だ。いつ行っても温かい気持ちになって帰ってくることができる。

長洲小学校に勤務させて頂き2年目、同じような感覚になる時がある。多くの行事でお手伝いを頂いているＰＴＡや地域の皆さん方だ。「地域連帯」「おもてなし」の価値が根付いている長洲小学校区だ。

雑感「大人がしてはいけないことは子供もダメ」

我が家で話題になったことです。我が子が小学生だった頃、私は我が子にも是々非々を通していました。それを見ていた私の両親、子供達からすればおじいちゃんおばあちゃんが、「そこまで厳しくせんでもよかろぉ…」と横やりを入れてきました。ケースバイケースですが、大人がやってはいけない事は子供もやってはいけないという事を伝える必要があると思うのですがいかがでしょう。私は両親の横やりを突っぱねました。

こういったことの積み重ねは、子供が要領よく、自分勝手に立ち居ふるまうもとになるのではないかと、私は危惧しています。しかも、大人が指導をすると「ダンマリ」を決め込み、不貞腐れる、その様な子供達が「主体性」「協働性」を発揮できるでしょうか。仲間から自分の非を指摘され、逆切れしてケンカになるようでは話になりません。「もう少し大人になろうよ。」と言いたくなります。高学年、中学校、高校と進む中で同じようなことをしていては、相手にされなくなります。進級するにつれて様々なことに客観性が持てるようになってくるのですが、中学、高校で幼い言動をしていては友達ができないばかりか、相手にされなくなるのです。そんな状況は避けたいものです。

「切磋琢磨」という言葉がありますが、自治的、協働的な集団は、良い意味でのライバルが互いの力を磨き、成長していきます。そのような集団作りを目指して、私はこれまで担任をしてきました。これまでの教え子達は私があの時話していたことを咀嚼し、自分なりの考えに変えて「切磋琢磨」し、道を歩んでいるようです。精神的に大人になるという事は、そういう事なのではないでしょうか。読者の皆様はどのように思われますか。

シリーズ「自分を語る」＃１４０

荒尾第一小学校に着任早々、非常事態（熊本地震）に巻き込まれ、昇任したは良い？けど仕事に追われる私。覚える事がこんな沢山あるんだと、毎日驚きの連続でした。

学校では運動会の準備に入っていく時期になっていました。この時期、改めて感じたことは、長洲小と同じく荒尾第一小学校がコミュニティ・スクールだったという事です。コミュニティ・スクールを簡単に説明しますと、学校運営に地域住民や保護者の皆様にも積極的に参加して頂こうというものです。学校内には学校運営協議会という組織が設けられ、その委員さんに地域住民や保護者、そして教師が参加しています。という訳で、学校にいらっしゃる方が非常に多く、しかもその方々は何らかの形で学校を支援して頂いている方でした。ということは教頭としては絶対に覚えなければならない方々です。顔と名前が一致するまでに少々時間がかかり、その間、教頭の仕事をするのは校長先生でした。運動会にも多くのご来賓の方々をお招きします。案内状の発送やら何やらでパニック状態の私、今になって思い出すと滑稽ですが、「目が回る」という表現がぴったりだったのではないかと回想します。

ただでさえ忙しい教頭業務、被災への対応等でヘトヘトでしたが、この時期にはトラブルで遅い時間まで残る日が数日ありました。ゴールデンウィーク前だったと思います。せめてGWだけは休みたいと真剣に考えていた私は、更に凹みました。この頃の私は後ろ向きでした。今だったら自分で自分を「ぶっ飛ばして」やりたいくらいです。

「とにかく目の前の事をこなすしかない！」という、半ば開き直りの状態で業務に向きあう私、何となく時間だけが過ぎていきます。私のキャパでは、この頃まだ新しい仕事にチャレンジする余裕はありませんでしたね。ま、しばらくしてからはまず仕事を覚える気持ちに切り替わらないと…、と思うようになりました。

さて、運動会準備が進んでいました。これまでは自分の与えられた業務をこなせば良かったのですが、教頭になってからは外部との折衝や調整も重要な仕事です。この仕事は新米教頭の私にとってはかなりハードでした。と言うのも、着任してから1か月少々ですので、人との繋がりもありません。何を頼るかと言えば、ＰＴＡの方々と職員でした。頼りない私を多くの方々がサポートしてくれましたね。この時期、正直とてもありがたかったです。

運動会当日は競技をノンビリ観るなんてことはできません。保護者の皆様、来賓の皆様、ＰＴＡ執行部の皆様との協働で多くのことに取り組まなければなりません。また、私はご存じの通り記録写真を撮りますので、私は座る時間は殆どありませんでした。それもまた楽しいのですが、教頭として初めての運動会でしたので気疲れしました。

運動会が終わり梅雨の時期に入っていきますが、教頭は少し先のことを見越して準備をしていかなければなりません。すでに夏休みの準備に入りました。業務はそれだけではありませんので、幾つかの仕事のゴールを設定し、業務のラインを複線化していくことを心掛けました。ただでさえ途中で仕事が途切れるのですから、業務の複線化は教頭職にあっては必要最低限のスキルだと捉えるようになりました。ルーティンワークは何となく出来るようになったかな？と思う澤田、それは錯覚でしたが…。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）